

職場体験で子どもを伸ばす

～村上市キャリア・スタート・ウィーク～

中学2年生が行う「職場体験学習」とは…

キャリア教育の中心的活動として、生徒が事業所などの職場で働くことを通して、職業や仕事の実際について体験し、働く人々と接することで勤労観、職業観を育てる学習です。

本市では、「村上市キャリア・スタート・ウィーク実行委員会」を組織し、受入れ事業所の皆様と学校、支援組織等が連携を密にして、村上の次代を創る中学生の職場体験が価値ある活動となるよう支援しています。

職場体験の受入れには、こんなメリットが…

- ◇ 次代を創っていく人材の育成として活用でき、事業所の地域貢献、社会的役割を具体化できます。また、地域における企業の認知度の向上にもつながります。
- ◇ 受け入れ方法を考えることが、仕事の見直しや職場の活性化につながり、社員教育の一環として活用することもできます。
- ◇ 事業や地域の課題等に取り組む内容での職場体験も可能です。中学生の考えや発想と事業所の皆様の御指導で、職場体験を機にコラボレーションできることがあるかもしれません。



<事業所> 座学形式の実習では、難しい内容も多かったと思いますが、生徒の皆さんが一生涯懸命に話を聞いており、すばらしいと思いました。また、現場スタッフへの質問も鋭い視点のものが多く、感銘を受けました。

<生徒> 保育士さんの姿から、責任を持って行動することの大切さや一緒に働く仲間同士で協力して仕事をする大切さが分かりました。この体験で学んだことを忘れず、これからの学校生活、将来に活かそうと思います。

<生徒> 3日間の体験で最も感じたことは、「仕事は人と人とのつながりで成り立っている」ということです。どんな作業であっても誰かの生活や活動の役に立っており、実現のためには職員の方々が連携し、地域の方々と協力することが不可欠だと感じました。

<事業所> 自分で考えた上で、分からないことは積極的に質問してくれました。挨拶や返事もしっかりできていてコミュニケーションが取りやすかったです。業務もスムーズに進めることができ、ミスしたときも報告があったのでフォローしやすかったです。

事業所や生徒、
保護者、学校から
寄せられた声
(令和7年度体験より)

<生徒> 覚えることがいっぱいあり、働くことの厳しさと社会ってこういうものなんだと学びました。自分から動くことは苦手だったけれど、分からないことがあったら聞いて行動することを意識しました。

<保護者> 1日中立ちっぱなしだったり、休み時間が少なかったり、働くことが少し身近に感じられてよい経験になったと思います。社会にはいろいろな仕事があり、それぞれの仕事に役割があり、今後、自分はどんな役割を担っていくのか、担っていききたいのか、考えが広がっていったらいいなと思っています。

<学校> 職場体験までに「進路」「将来」を具体的に描けるように、1年生の段階から先を見すえたキャリア教育を行っていく。また、エンパワメントのよい機会なので、事前学習から個々の生徒の活動を丁寧に見取り、声掛けをしていく。さらに、体験後、学びを下級生や地域に広く発信することで、2年生や事業所だけのものとせず、次の世代や地域にとって有意義なものにしていく。